校友時報

平成6年3月7日
編集人兼発行人
秋田県能代市高塚2番1号
秋田県立能代高等学校新聞部
印刷所　㈱大勝堂印刷

白鳥飛翔、

新制・第46期生が卒業

同窓生は一五、六七九名に

校舎上空を北へ帰る白鳥が飛び交う今日三月七日、平成五年度卒業式が午前十時から行われる。式には卒業生のほかに来賓、保護者、教職員、そして在校生全員が出席して卒業を祝う。

今日は三年F組の沼田誠さんが卒業生三百二十八名の代表として、校長先生から卒業証書を受け取ることになっている。また今年は例年より多い三十名の人たちに皆勤賞が授与される。代表者は三年C組の金智香子さんである。

受験のため式に出席できない卒業生も数名いる。また大学の合格発表も全部は終わっていないので、卒業生全員の進路が決定しているわけではない。そのため例年のことながらまだ不安の残る面もある今日の卒業式である。しかしながら、この能代高校で約三年間学び精神的に、肉体的に成長した卒業生は、必ず最後まで努力しその底力を見せてくれることと期待される。

今年は卒業生から母校に残す記念品として、面接の時などに教室を仕切るのに使用する「システムパネル」が寄贈された。在校生からはコーヒーカップが卒業生へ贈られた。

皆勤賞受賞者

なお今年の皆勤賞受賞者は次の人たちである。

（A組）加賀谷匠・池端妥希・石垣幸恵・工藤陽子
（B組）岡本英樹・斉藤雅俊・宮腰久美子
（C組）田中智教・越後谷育子・金智香子
（D組）石川良一・佐藤正智
（E組）唐土貴弘・嶋田博和・袴田貴・日沼洋子
（F組）岩谷学・菊地良宏・工藤茂智・腰山岳大・須藤康・畠山大作・三沢守・柳川章全
（G組）柴田博晃・高田望・塚本幸治・戸松聡・西沢一彦・葛田裕美

春風や闘志いだきて丘に立つ

高浜虚子

春風や　闘志いだきて　丘に立つ——

春の一日、燃えるような闘志をいだいて小高い丘に立つと、眼下は広々とひらけ、草木が芽ぶき、春風がさわやかにそよいで、いよいよ未来へ向かって決意が固くなるのを覚えた。虚子の句は未知の世界へ向かって固い決意と共に歩んでゆく今日の卒業生の姿である。

（色紙・A 森田香奈子）

進路

センター受験二百人突破

"私立離れ"が進む

平成六年度大学入試センター試験がさる一月十五、十六日の両日に、秋田大学を会場として実施された。今年の全国のセンター試験受験者数は四十九万六千人。県内の受験者数は三千四百二十二人。とも過去最多の人数である。

本校でも毎年センター試験受験者は増えてきていたが、今年初めて二百人台を突破、二百三人となった。（表Ⅰ）

表Ⅰ　最近4年間のセンター試験受験者数

年度	受験者数
平成3年	155
平成4年	157
平成5年	176
平成6年	203

不況も影響か

表Ⅱは、最近三年間の進路状況を表わしている。表をみればわかるように、今年の卒業生の大部分が進学希望者である。特に、国公立大への進学志望者の数が増えている。

これは昨年から続く不況のあおりを受けて、授業料等の高い私立大から、国立大へと目が向けられていることがわかる。ここ数年続いた私立大志望傾向が、再びまた国立へ戻る傾向に変わってきている。世間で言うところの、「私立離れ」である。また就職者の数も昨年よりも減少している。

表Ⅱ　最近3年間の進路状況

（平成6年2月22日現在）

種別＼年度		平成6年 第1希望		平成5年 3月卒		平成4年 3月卒	
卒業者総数	男	223	328	227	329	224	325
	女	105		102		101	
大学 国公立大	男	106	164	53	74	54	76
	女	58		21		22	
大学 私立大	男	87	110	75	100	61	91
	女	23		25		30	
短大 国公立短	男	8	17	7	13	1	8
短大 管外短	女	9		6		7	
短大 私立短大	男	0	3	0	22	1	17
	女	3		22		16	
進学者数 小計	男	201	294	135	209	117	192
	女	93		74		75	
専修学校・各種学校等への進学	男	10	14	21	28	27	37
	女	4		7		10	
就職者数	男	12	20	19	25	33	40
	女	8		6		7	
その他（浪人を含む）	男	0	0	51	67	47	56
	女	0		16		9	
合計	男	223	328	227	329	224	325
	女	105		102		101	

表Ⅲは、今年の受験生の出願校数の状況を調べたものである。今年も昨年同様に、一人あたりの出願校数が減少している。その中で、昨年と変わらぬ出願校数を保っているのは国公立大専願である。この国立大専願と国私併願の人数が、昨年より増えたのは、やはり国公立大への進学志望者数が増えたからである。

地元志向変わらず

表Ⅳは、出願校のベスト十五をだしたものである。国公立大、私立大ともに、北海道地区、東北地区にある大学が多いのがわかる。全国的に、地元志向というものがあり、本校では北海道、東北地区の大学を希望する生徒が多いからである。

表Ⅲ　出願校数調査

（　）内は昨年度

項目＼校種	人数	出願校数
国公立大専願	91名（71名）	1.8校（1.8校）
国私併願	73名（59名）	3.9校（4.5校）
私立大専願	110名（136名）	3.7校（5.1校）
短大専願	20名（17名）	1.9校（3.2校）

昇降口に張り出された受験生激励のことば

表Ⅳ　出願校ベスト15

（　）内は昨年度

国公立出願ベスト15		私立大出願ベスト15	
①秋田大	88(69)	①東北学院大	44(51)
②弘前大	39(25)	②秋田経法大	22(32)
③北教大函館	25(11)	③札幌学院大	21(41)
④東北大	23(12)	④東北福祉大	18(26)
④山形大	23(8)	⑤国士館大	17(7)
⑥新潟大	14(16)	⑥日本大	15(23)
⑦岩手大	13(13)	⑦盛岡大	14(11)
⑧福島大	12(19)	⑦帝京大	14(4)
⑨釧路公立大	9(2)	⑦立正大	14(14)
⑩埼玉大	7(3)	⑩札幌大	9(21)
⑪青森公立大	6(0)	⑩文教大	9(11)
⑪都留文科大	6(0)	⑩東京農業大	9(2)
⑬横浜国立大	5(4)	⑬東北薬科大	8(7)
⑬宮城教育大	5(4)	⑬大東文化大	8(15)
⑬高崎経済大	5(1)	⑬中央大	8(12)

ボイラー全面改修

夏季の補習はどこで？

来年度、学校のボイラー設備の全面的な改修工事が行われることになった。

本校校舎は移転新築されてから二十年もたち、老朽化が進んでいるほか、施設が利用しにくいというような問題も生じている。これまでも、トイレや進路指導室などの改修が行われたり、今年度はトイレの修理、体育教官室や女子更衣室の改築なども行われている。

今回のボイラー改修は、ボイラーの配管に穴があいていて危険であり、また各階ともに、ボイラー室から最も遠いF組、G組の教室が温まるまでにはかなりの時間がかかるということで、ボイラー本体をすべて取りかえるということになったものである。

これで、授業中に突然蒸気が吹き出したりすることもなく、適当な室温が保たれるようになる。

工事の詳しい計画はまだできていないが、今年の夏休みに工事の中心がおかれる見通しである。そのため、夏休みに行う補習授業に少なからぬ影響があるものとみられ、現在一・二年生の先生方は、工事計画の完成を待つ一方で、適当な補習形態の検討と会場さがしをしているところである。

ボイラー改修工事に関して校長先生は、「校舎の環境の改善は進んでいる。生徒諸君も、内面の改善、みずからの生活環境の改善を心がけてほしい」と言われた。

高校入試　女子志願者ふえる

トイレが足りない!!

今年の高校入試は明後九日に実施されるが、今年の本校志願者数は定員三〇八名に対して三三一名となっている。

ところで、本校生徒のうち女子生徒の割合が年々増加の傾向にあることが、話題となっている。

本校の現在学中の女子が三年生が一〇五名（三一・八％）、二年生が一二七名（三八・七％）、一年生が一〇九名（三三・七％）であるのに対して、今年の女子の本校入試志願者数は一五一名（四五・六％）と、圧倒的に増加している。この表の全体をみると、能代市内のある中学校では、今年実業高校を志望した生徒がかなり減った。これは景気によっても左右されるので、一概に普通科志向になってきたとは言えない。景気にも目を向け、この先どういう道を進んだら自分に有利かを中学生なりにしっかり考えているからだと言える。ある中学校の先生は、「能代高校の女子が多くなってきているということを特別な問題のように扱う必要はないと思う。女子であろうと男子であろうと、努力する生徒はのびるだろうし、そうでない生徒は成績が落ちてしまうだろう。それは男女の性別が関係したことではない。」ということだった。

ただ、もともと男子が多いということで設計されている校舎の施設設備に不都合が生じていることは事実。トイレがその第一の問題である。又伝統的な校風の維持という面に、危惧を感じる先輩も少なくないようである。女子増加への声援いは、本校の未来像にも影響を与えそうである。

ジャンゴ者はいないか!?

▼列車またはバスの乗車マナーについて、我々高校生の考えはどんなものだろうか。おそらく「良い」と考えている人は少ないだろう。例えば乗車する際は入口に群がり、押し合いながら乗ろうとする。おとそきちんと並んで乗車しようとする習慣が身についているようには見えない。▼さて乗車してからも目につくことはある。五能線利用者の経験で言えば、まず第一に「汚い」ことである。ジュースの空缶や菓子類の袋などが特に目につく。これは誰が見ても美しい光景とは言いかねる。皆がやっているから良いというわけでなく、一人一人がゴミをきちんと持ち帰るよう心がけたいものである。▼第二に、お年寄りの前で平然とシルバーシートに座ることのできる人のいることである。自分がいくら疲れているからといってもこれは見てもみっともないし、腹立たしい。▼地域社会の中で高校生、特に能代高校生の果たす役割というものがあろう。五能線利用者に告ぐ。「列車マナーを知らない爺さん婆さん、父ちゃん母ちゃんに、エチケットとはこういうものだ、と知らせてやろうではないか。」奥羽本線はどうか。まさかこんなジャンゴ者の高校生はいないだろうね。▼列車に整然と並んで乗車できる人は、購買で先を争ってパンを買ったりはしないだろう。来年度は食堂の食券販売も改良させようとしている。▼マナーの「オシャレ」な高校生になろう。